

感謝状 贈呈者一覧

総務部総務課

【感謝状】

(敬称略)

区分	氏名(年齢)	功績
証言	いけだ まさたか 池田 正孝(83)	<ul style="list-style-type: none"> ・元教員、竹島の漁業権を持っていた池田邦幸氏の弟、隠岐の島町栄町在住 ・1965(昭和40)年、五箇村久見小学校勤務時に同小学校において竹島の授業を行われた。竹島問題研究会の隠岐調査において、昭和初期の竹島での漁撈について、漁師やアシカの様子など貴重な証言をされ、当時の漁労の実態を知るうえで貴重なものとなった。
資料提供	おくほら あつこ 奥原 篤子(76)	<ul style="list-style-type: none"> ・奥原碧雲氏(故人)の孫、東京都小金井市在住 ・碧雲氏執筆の「竹島経営者中井養三郎氏立志傳(原稿)」や「竹島及鬱陵島(原本)」、竹島実地調査団の名簿、竹島渡航途上に出された絵はがきなど、貴重な資料を島根県へ寄贈された。 <p style="text-align: center;">※奥原碧雲氏(本名福市)(故人)は、八束郡秋鹿村(現在の松江市秋鹿町)尋常高等小学校長を務める傍ら、郷土史家としても活躍。竹島の領土編入の翌年、1906(明治39)年3月に実施された島根県による竹島実地調査に参加。</p>
証言	ささき きじゆん 佐々木 惇(80)	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島漁撈の開拓者である石橋松太郎氏の孫、隠岐の島町原田在住 ・松太郎氏が1897(明治30)年頃から竹島で手掛けていたアシカ猟やアワビ漁などについて、その実態を詳細に証言された。その結果、明治30年代の漁撈の実態が明らかとなった。また、当時の竹島漁撈の実態について、隠岐の島町久見、山田地区において2回にわたり講演を行われた。
資料提供	ながくぼ はしむ 長久保 甫(74)	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸藩の地理学者長久保赤水の子孫、茨城県高萩市在住 ・1760年代作製「日本図」、1768年作製「改正製日本扶桑分里図」の所蔵者で、貴重な資料を提供された。調査の結果、これらの地図は、現在の竹島を初めて記した日本地図であるとみられ、江戸時代後期における竹島領有権を調査研究する上で貴重な資料となった。
資料提供	はまだ やすみ 濱田ヤスミ(96)	<ul style="list-style-type: none"> ・濱田正太郎氏(故人)の妻、隠岐の島町東郷神米在住 ・昭和初期の竹島漁撈で使用されていたカンコ舟について、その模型を島根県や隠岐の島町に寄贈された。模型は、船大工としてカンコ舟を製作していた正太郎氏自らが作ったもので、当時の漁労の実態を知るうえで貴重な資料となった。 <p style="text-align: center;">※カンコ舟は、戦前、母船に積まれて竹島周辺へ運ばれ、サザエやアワビ漁、アシカ猟に使用された小型漁船。手漕ぎで、帆はもたない。</p>